

第3回 賀茂社家古典籍セミナー

わたしたちは、下鴨上賀茂の両地域に古くから蓄積された古典籍の調査をもとに、独特の文化圏について、さまざまな分析を試みる共同研究を行っています。洛北に形成された社家の文事の豊かで多様なあり方を、みなさまと共有する機会になればと願い、このセミナーを企画しました。研究成果の一端を公開する本セミナーは、共同研究最終年度の3年目を迎え、今回までの開催となります。みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

開催日 2024年 10月19日(土曜日) 13:30～16:30

場所 京都産業大学 むすびわざ館 2階ホール
(京都市下京区中堂寺命婦町1-10 ※裏面参照)

挨拶 国文学研究資料館長 京都市歴史資料館長 山本家当主(徳島文理大学専任講師)
わたなべ やすあき いのうえ みつお やまもと よしひろ
渡部 泰明 井上 満郎 山本 義浩

講師 基調講演
京都産業大学教授/日本文化研究所員
もりた ていこ すえたか のぶ
盛田 帝子 【演題】賀茂季鷹と近衛董子

講演
京都大学・京都府立大学非常勤講師
みやたけ まもる
宮武 衛 【演題】国学者と漢詩文、注釈

京都大学大学院生
わたなべ ゆりこ
渡辺 悠里子 【演題】賀茂季鷹による仮名遣い研究

解説 見どころ 京都市歴史資料館特別展「賀茂季鷹と古典の「知」」
会期: 2024年10月19日(土曜日)～2024年11月24日(日曜日)

京都産業大学教授/日本文化研究所長 京都市歴史資料館歴史調査員
こばやし かずひこ まつなか ひろし
小林 一彦 松中 博

定員 300名

受講料 無料

申込方法 事前申込制 先着順

①Eメール bunko.seminar@nijl.ac.jp

②ウェブフォーム <https://forms.gle/122iJXhXcRlQX9qz8>

上記いずれかの方法でお申し込みください。後日Eメールにて受講票を送付いたします。
Eメールの場合は、タイトルを「第3回賀茂社家古典籍セミナー申込」とし、本文に氏名、氏名ヨミ、メールアドレスを記入し送信してください。ご記入いただいた個人情報は、当行事運営のために使用します。

受付開始 8月 26日(月曜日)

締切 10月 4日(金曜日) ただし、定員になり次第締切とします。

主催
お問い合わせ先

 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3
HP: <http://www.nijl.ac.jp/>
E-mail: bunko.seminar@nijl.ac.jp

共催

京都産業大学日本文化研究所

後援

賀茂御祖神社(下鴨神社)、賀茂別雷神社(上賀茂神社)、

 古典の日
古典の日推進委員会
Hulu 古典の日

協力

京都市歴史資料館

お申し込み
はこちら



第3回 賀茂社家古典籍セミナー

挨拶

国文学研究資料館長
わたなべ やすあき

渡部 泰明

京都市歴史資料館長
いのうえ みつお

井上 満郎

山本家当主(徳島文理大学専任講師)
やまもと よしひろ

山本 義浩

基調講演

京都産業大学教授/日本文化研究所員

もりた ていこ
盛田 帝子

【演題】賀茂季鷹と近衛董子

『雲錦翁家集』を繙くと、季鷹は、有栖川宮家や妙法院宮家、近衛家、日野家といった堂上家の歌会に詠進し、富小路貞直とは互いの別宅を往来し、関白一条忠良からは別荘 雲錦亭の額をいただくなど、地下歌人でありながら宮家・公家と華やかな交流があったことが知られます。季鷹の従妹であった近衛董子(近衛家24代経熙公室)との関係に着目しながら、季鷹と堂上家との交流について考えます。

講演

京都大学・京都府立大学非常勤講師

みやたけ まもる
宮武 衛

【演題】国学者と漢詩文、注釈

江戸時代の国学者といえば、『萬葉集』や『源氏物語』を研究していたことがよく知られています。いっぽうで、その研究対象は幅広く、日本人が作った漢詩文にも及んでいます。本講演では、平安時代に編まれた漢詩文集を取り上げ、その本に国学者が書き入れたことから中心に、国学者による漢詩文研究について紹介します。さらに国学者による和歌注釈についても検討することで、その研究手法の限界についても触れてみます。

講演

京都大学大学院生
わたなべ ゆりこ

渡辺 悠里子

【演題】賀茂季鷹による仮名遣い研究

「十」と「塔」とは声に出せばどちらも「トー」ですが、「現代仮名遣い」に基づく「とお」「とう」と書き分けます。現代仮名遣いの源流は、江戸時代の僧契沖が提唱した仮名遣いです。契沖の仮名遣いを尊重した国学者のひとりが賀茂季鷹でした。季鷹は契沖の仮名遣いを模倣するだけでなく、仮名遣いについての著作も残しました。季鷹はどのように契沖の考えを受け入れ、発展させたのでしょうか。

解説

京都産業大学教授/日本文化研究所長
こばやし かずひこ

小林 一彦

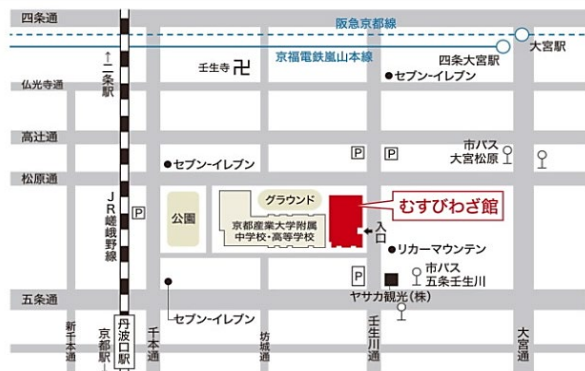
京都市歴史資料館歴史調査員
まつなか ひろし

松中 博

見どころ 京都市歴史資料館特別展「賀茂季鷹と古典の「知」」

展示会場：京都市歴史資料館（京都市上京区寺町通荒神口下る松蔭町138番地の1）

会期：2024年10月19日(土曜日)～2024年11月24日(日曜日)



場所

京都産業大学 むすびわぎ館 2階ホール
(京都市下京区中堂寺命婦町1-10)

お問い合わせ先

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3
HP: <http://www.nijl.ac.jp/>
E-mail: bunko.seminar@nijl.ac.jp

お申し込みはこちら

締切

10月31日(火曜日)

